

管財課

建設会社と技術者の施工能力を評価

優良建設工事施工業者の認定、優良技術者の表彰



前列左から(株)大歳組取締役副社長 黒谷武晴さん、木山市長、小林建設(株)専務取締役 小林 護さん、(株)大和建设代表取締役 藤原由雄さん、後列左から(株)大歳組 鈺谷光男さん、小林建設(株) 吹野誠二さん、(株)大和建设 池森誠治さん

○優良建設工事施工業者および優良技術者（敬称略）

優良建設工事施工業者	対象工事	優良技術者
(株)大歳組(東本町)	明賀池既設堤体対策工事(平成30年度)	鈺谷 光男
	明賀池既設堤体対策工事(令和元年度)	
小林建設(株) (東本町)	庄原駅周辺地区土地区画整理駅前広場整備工事	吹野 誠二
(株)大和建设 (七塚町)	市道庄原高線 (2工区) 災害防除工事	池森 誠治

7月29日、市役所で、本年度の庄原市優良建設工事施工業者の認定式ならびに優良技術者の表彰式を開催しました。

この制度は、建設会社の技術力向上を目的として、市が発注する契約額500万円以上の建設工事について、品質や出来栄え、安全対策など総合的に評価する工事成績評定点が82点以上(満点100点)の成績を取めた工事の施工業者および技術者を認定・表彰するものです。

令和元年度に完成した対象工事46件のうち、優れた施工技術により認定基準を満たした3社を「優良建設工事施工業者」として認定し、工事を担当した技術者を「優良技術者」として表彰しました。

認定制度を創設した平成20年度から、(株)大和建设は6度目、(株)大歳組は5度目、小林建設(株)は3度目の認定となりました。

木山耕三市長は認定書と表彰状を手渡し「その高い技術力を、社会資本の整備や、市民の安心安全のために役立ててください」と述べました。

Camera Report

カメラレポート

●市内のイベントやまちの話題をお届けします。行政管理課広報統計係 ☎0824-73-1159 / Fax0824-72-3322



災害に備えて

避難所設置訓練・6/26

No.1

庄原市民会館・庄原自治振興センターで「避難所設置訓練」が実施されました。

この訓練は平成30年7月豪雨をきっかけに、庄原自治振興区自主防災本部と市が連携し、昨年度から実施しています。

今回は、新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた訓練が行われました。集会室では、避難者1人当たりのスペースを3.6㎡確保し、避難者同士の間隔を1~2mとった上でパーティションで区切り、ベッドなどを設置したほか、受け付けでは、非接触型体温計の利用や体調の聞き取りなどが行われました。

参加者は「感染症を意識しながら避難所を運営するのはとても難しい。住民が安心して避難できるように、この訓練を常に意識したい」と話していました。



▲パーティションの設置



▲非接触型体温計を利用した受け付け



▲1人当たりのスペースを確保



玄関前が花いっぱい

下領家自治会 花の植栽・6/7

No.7

市役所総領支所の玄関前芝生スペースで、下領家自治会女性部を中心とした26人が、「総領花いっぱい運動」の一環で花の植栽を行いました。

女性部の皆さんは、国営備北丘陵公園の齊木義伸さんから、花の色の組み合わせや、肥料の選び方などを教わり、素焼きの鉢に寄せ植えをしていきました。また、植栽だけでなく、アーチや石畳も設置されてにぎやかな庭が完成しました。

今後は、水やりなどの管理を女性部が行い、秋には植え替えも予定しています。参加者は「芝生だけでは寂しかったので、玄関前のスペースが華やかになってよかった」と話していました。



▲植栽の説明を聞く様子

満開のスイセンを目指して

スイセンの球根掘り上げ・6/23～7/12

No.9

国営備北丘陵公園「みのりの里 スイセンガーデン」で、自治振興区などの団体がスイセンの球根の掘り上げを行いました。

この活動は、庄原市の観光地域づくりの一環として「花と緑の新たな魅力の創出」および「花と緑のまちづくり」の啓発を目的に行われています。

あらかじめ掘りやすいようにほぐしてあった畑から、シャベルなどを使用し、傷つけないように注意しながら約500個の球根を掘り上げました。

参加者は「掘り上げた球根を植えて、さらに分球し、スイセンをもっと増やしていきたい」と話していました。

掘り上げられた球根は各団体が持ち帰り、10月～11月ごろに市内各所へ植え付けられる予定です。



▲掘り上げられたたくさんの球根

行政相談を身近に

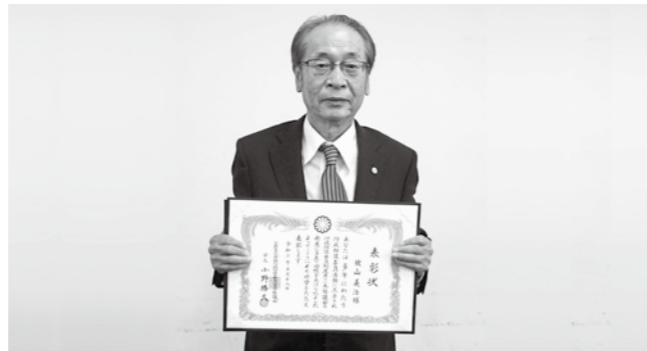
行政相談委員の表彰・7/2

No.6

広島市の中国四国管区行政評価局で、総領地域の行政相談委員である秋山義治委員が、その活動に顕著な功績があった者として表彰されました。

秋山委員は、行政相談委員を13年3カ月在任、また、行政相談委員で構成する都道府県単位の団体の役員として7年在任し、市民からの行政に対する要望や苦情の解決に取り組んできました。

行政相談委員は、毎日の暮らしの中で、行政に関する「こうしてもらいたい」「どうしたらよいかかわらない」といった相談を受け付けています。秘密は固く守られますので、お気軽にご相談ください。



▲表彰された秋山委員

安全を学ぶ

交通安全教室・6/24

No.8

西城小学校で交通安全教室が開催され児童77人が参加しました。この教室は、自転車点検の方法や正しい乗り方、安全な歩行の仕方を確認し、登下校に生かすことを目的に行われています。

まず、庄原警察署西城交番工藤勇太巡査部長より、通学路での注意事項や自転車に乗る前の点検について説明が行われました。その後、児童はグラウンドで自転車と歩行グループに分かれ、警察官や交通安全協会の指導を受けながら指定されたコースで練習を行い、安全な歩き方、運転の仕方を学びました。

参加した児童は「今まで自転車に乗るときに点検をしていなかったのが、今度からは点検したい」と話していました。



▲自転車に乗る前の点検方法を説明

“あたたかい”贈り物

社会福祉法人人口和福祉会 防災物品の寄贈・7/13

No.3

社会福祉法人人口和福祉会から、災害時に避難所で使用する布団などの防災物品が市に寄贈されました。

寄贈された物品は、毛布5枚のほか、敷布団12枚、掛布団24枚、敷パット8枚です。これらは、以前介護施設などで使用されていたものをクリーニングし、再利用するものです。

同法人の増原豊理事長は「近年、大きな被害をもたらす自然災害が続いている。災害発生時に避難所で市民の皆さんのお役に立てていただきたい」と話していました。



▲布団を手渡す増原理事長(写真左)

地域の将来を考える

高野地域創生事業説明会・7/4～7/15

No.5

高野地域自治振興区連絡協議会は、「高野地域創生事業」に関する説明会を地域の4会場で行いました。この説明会では、昨年度地域で策定した「高野地域未来創生基本ビジョン」についての説明が行われました。

このビジョンでは、人口減少・少子高齢化で地域の持続可能性に危険信号がともる中、地域社会の維持に向けた構想がまとめられています。今後、定住推進・人口流出抑制するための実行計画を策定し、地域一体となり、課題解決に取り組んでいきます。

同協議会事務局の草谷洋さんは「策定する『高野地域未来創生実行計画～定住実現5年プラン』に、より多くの方の意見を反映させていきたい」と話していました。



▲下高自治振興センターでの説明会の様子

短冊に願いを込めて

比和ふれあいセンター 七夕・7/3

No.2

七夕の日を前に、地域住民の願い事が書かれた短冊や七夕飾りが、比和ふれあいセンターに飾られました。

これは、毎年開催されている“比和まるごと家族「たなばたまつり」”が、新型コロナウイルスの影響で中止となったため、その代わりとして、庄原市社会福祉協議会比和地域センターや比和自治振興区地域マネージャー、地域住民などが一緒に企画したものです。

短冊には、将来の夢のほか「新型コロナウイルスが早く終息するように」といった、今だからこその切実な願いが書かれたものも多く見られました。



▲天の川をイメージした大きな台紙に飾られた短冊

三楽荘×生け花

生け花教室・7/11

No.4

東城町の三楽荘で、「庄原市文化協会東城支部伝統文化子供教室」によるワークショップが行われました。同教室は、毎月第2土曜日にワークショップや作品展示などのイベントを開催しています。

今回は、生け花体験が行われ、15人の子どもが参加しました。最初はどこから手をつければよいのか分からなかった子どもたちも、先生からのアドバイスでアジサイやヒマワリなどを次々に生けていきました。

同施設に展示された生け花からは、子どもたちの生き生きとした元気な様子を想像することができました。展示を見ていた来場者からも自然と笑みがこぼれていました。



▲開催された生け花教室の様子